

時局日誌 (六)

Y
H
生

一月十一日 厚生省誕生す、事變下に現内閣新政策の一つとして創定せられた厚生省は本日執務開始、兼相木戸文相は初代大臣として就任せられた。

昨日北京日本大使館森島參事官は中華民國臨時政府首腦部約七十名を招待したが王克敏は次の如き挨拶を述べた。「貴國朝野の絶大なる協力を得て共產黨と合作の國民政府を清掃し、將軍閣政權を根本的に覆すことが出来、更生中華民國の幸運に恵れたるは中國四億の民の齊しく欣快に堪へない、將來經濟開發に主力を注ぎ善隣貴國の大なる犠牲を無意義ならしめざるやう不肖等新政府當局者は大い

に奮勵努力する覚悟である」と又中華民國臨時政府教育局長張心泗は新政府の教育方針を發表した、夫れは

國民黨政府は専ら黨化教育方針を採り根本に於て誤つた方向を採つてゐた、新政府がこの誤れる教育方針を是正し、更に積極的方針を樹立するのは當然で目下教育部で立案を急いで居り近く行政委員會に提出されることとなつた、近く全國立大學の接收を終り復活させるが各大學に重複してゐる學課を統一することならう。

青島支那電報局はわが海軍の管理に歸し青島佐世保間の海底電線の破損個所の修理

を急いでゐるが敢取らず大連經由の無線連絡で十三日早朝から日本内地及び滿洲北京、天津との日本文公衆電報の發受信事務を開始した。青島着電の分は陣容が整備するまで配達せず電報局前に宛名を掲示することになつた。

一月十二日 十日夜安田部隊の一部は成安北東二里の北王固附近で元臨城公安局長薛光崇の指揮する殘敵約二千と遭遇し一朝城門を爆破して敵を潰走せしめた、この戦闘で敵の遺棄死體百五十、此の日午後一時千田海軍空襲部隊は牙え返る響空を蹂躪して鹿島飛行場を始め格納庫、兵舎及び地上軍事重要施設に猛撃を敢行

全機無事歸還した。

濟南の治安は皇軍の手によつて全く確立されたので天津に待機中の有野濟南總領事は十四日いよいよ濟南に歸還し昨年八月十七日以來封鎖中の領事館の門扉を五ヶ月ぶりに開き又十五日より毎日約二十名の豫定で在天津百五十名の引揚居留民が歸還することになった。

一月十三日 我荒鷲隊は粵漢線附近を攻撃し軍事輸送路を破壊し、軍田附近に於て貨物列車機關車を爆破す。

一月十四日 津浦線滄縣西北方の山嶽地帯を本據に配下四五百名を擁し事變前より安徽省中部地帯を荒してゐた土匪の女頭目蔣毛氏は我が津浦線北上部隊に壓迫され嚴寒に糧食、燃料に窮した揚句、滄縣の我が〇〇部隊に投降を申出で來つたが我が方では永年支那良民を苦しめた土匪とて斷乎投降申出でを拒否、討伐を開始することゝなつた。

蔣毛氏は今年四十五歳だがつねに粉黛を凝らし一見三十歳前後數百の部下を隨使する女頭目とは思へぬ美人だが、性格は残忍で部落を襲撃した際など氣に入らぬ者があれば女子供の區別なく殘虐を敢てする女性である。

國民政府は子學忠及び沈鴻烈をそれぞれ山東省における軍事及び行政の責任者に任命したと報じてゐる。

膠州灣入口の小青島及び團島の兩燈臺は謝剛哲の支那第三艦隊の手によつて破壊されてゐたものを我が海軍部隊は直に之を修理點火してゐるが十四日午後三時我が海の強者の手により青島、團島兩燈臺上に軍艦旗が掲揚され兩島の正式占據が宣せられた、我が同島接收部隊は格納庫と共に敵が組立中であつた飛行艇三臺をそのまま鹵獲した。

一月十五日 海軍航空隊は本日長驅して湖北省孝感及び江西省南昌を空襲敵飛行場

に對し壯烈なる爆撃を敢行敵に多大の打撃を與へた。

此の日午後一時酒卷部隊長指揮の海軍空襲部隊は長驅して漢口、長沙を衝き徹底的打撃を與へた、又、千田、三木各部隊も時を同じうして同地を襲ひ、巨彈を投下し飛行場、格納庫、兵舎その他軍事施設に打撃を與へた。

青島市治安維持會の先驅とも見るべき青島督察處は十五日午後一時から舊公安局で發會式を舉げた。隊長董榮卿處長應秋夫氏以下二百八十名の隊員が成立し海軍の白石特務部長の訓示があつてからそれ〴〵部署についたが督察處結成の目的は支那の反動不逞分子、共產排日分子の取締りに當る。

一月十六日 政府は重大聲明を中外に發表した。其の全文左の如し。

帝國政府聲明

「帝國政府は南京攻略後尙ほ支那國民政

府の反省に最後の機會を與ふるため今日に及べり、然るに國民政府は帝國の真意を解せず、漫りに抗戰を策し、内民人塗炭の苦しみを察せず、外東亞全局の和平を顧みる所なし、仍て帝國政府は爾後國民政府を對手とせず、帝國と眞に提携するに足る新興支那政權の成立發展を期待し是と兩國國交を調整して更生新支那の建設に協力せんとす、元より帝國が支那の領土及び主權竝に在支那列國の權益を尊重するの方針には毫もかはる所なし。

今や東亞和平に對する帝國の責任愈々重し。政府は國民が此の重大なる任務遂行のため一層の發奮を冀望して止まずし。

濟南總領事館は去る十四日五ヶ月振りで再開したが、總領事館勤務員二十名は一日遅れて十五日午後一時中に紅一點のダイヤモンド鑲を混へて歸任。十六日以降更に毎日二十名づつの引揚げ居留民が之

亦復興の意氣に燃え乍ら歸つて來る事になつてゐるので濟南市はそれと共に早くも活氣を見せて來た。

一月十七日 去る十日興中公司派遣員一行の手によつて接收された泰安附近の華實炭坑は、これを占領したわが赤柴部隊の功績を記念するため十七日更めて赤柴炭坑と命名された。

日滿支蒙經濟提携と親善通商の先驅として蒙疆地區には早くも日本商品の進出を見、張家口、綏遠の兩地に日本市が盛大に開かれる事となつた。即ち大阪東亞輸出組合、大阪府市商工會議所と張家口、綏遠の兩商務會の主催となつて張家口では二月十二日から十四日まで綏遠では同十八日から二十日まで各三日間に互り約三十軒の代表者が參加して大阪商品の見本市が開かれ、斯くて往年の外蒙ロシヤ貿易の最大據點が日支、日蒙貿易の據點となり、その通商貿易の前途は非常に期

待されてゐる。

一月十八日 戰局の重點は新年以來依然として徐州會戰に集められてゐる、濟南方面より南進中のわが桑田、福榮の諸部隊は徐州を距る三十里の濟寧、鄒縣の線に進出してをり、之に對して敵軍は濟寧の南方地區の金鄉單縣魚臺城武に廣西軍を配し、同地區より臨城に至る線に八十一

二十二、七十四、二十一の各師を置き徐州及び隴海線の防備を固め、其總兵力は四十餘萬と稱されてゐる、又浦口方面より北進中のわが添田部隊は管店、明光を相ついで陥れ、十八日朝鳳陽前面の要地臨淮關に肉薄した、鳳陽には顧祝同麾下の正規兵と共產系遊擊隊約三萬がある津浦線の要地蚌埠を固めてゐる。

一月十九日 破竹の勢ひで南北に猛進しつつある皇軍を徐州附近の津浦、隴海兩線で喰ひ止めるべく支那軍は第五戰區總司令李宗仁を總指揮とし中央軍、山西軍、

山東軍、舊東北軍等無慮四十萬を集結し防備を固めてゐるが、前線部隊の相次ぐ敗報と我陸海軍航空隊の猛爆に早くも動搖を來し一部支那軍は隴海線に沿うて西方に向け退却を開始した模様である。

去る三日濟南出發以來濟南青島方面より潰走した敵敗殘兵を掃蕩しつゝ膠濟線に沿ひ暮ぐらに東進中だつた長野(新)部隊は十八日夜青島郊外約五里の流亭に到着同地に青島入市前の最後の一夜を明かした後十九日早朝同地より降り積む白雪を踏みつゝ前進途中〇〇方面より先着の櫻井部隊長並に支那側代表官民等の出迎へを受け午後二時半日支市民歡呼のうちに歩武堂々青島に入つた、これにより濟南青島間三百九十餘キロの連絡は完成された。

一月二十日 我が空軍の猛烈なる空襲により廣九鐵道、粵漢鐵道は甚大なる損害を受け去る土曜日から今週にかけて香港よ

り廣東向けの武器彈藥の輸送は極めて不活潑であるがこれにも増し粵漢鐵道は殆ど輸送不可能の状態で廣東より漢口へ向け武器彈藥軍需品等を積んだ夥しい貨車列車は目下廣東に釘付けとなり、今後更に六日間は修理に要するため漢口に向け急行列車の運行は當分行はれないものと見られて居る。

寺内最高指揮官は北京に移駐し左の如き重大なる聲明を發した。

「今次余の北京に移りたるは軍統率上の必要に基くものなり、また他面これがために北支に成立せし新政府の首都たるこの地において親しく新政府を支援して明德新民の施政に協力し得るは余のひそかに欣快とするところなり、今や皇軍の向ふところ威武堂々黃河、揚子江を壓する、然るに迷夢未だ覺めざる黨軍首腦者は徒に長期抗戦を呼號して民生の窮迫を顧みずその膏血を犠牲にしてやまざる暴狀を

敢てし人道の公敵たる赤化の魔手に醜弄されつゝあり、帝國政府は隠忍久しく彼等の反省を待ちしも何等誠意の見るべきなく過般つひに國民黨政府を對手とせざる旨を聲明するに至れり、かくて余は更に徹底的に黨軍の歴倒覆滅を期し更に新與支那の建設に協力し民生の救済、文化の復興に寄與するところあらんとする次第なり」

皇軍の太原占領以來既に二ヶ月餘、山西の都太原市は今や人口五萬に復活、女子供も街上に皇軍將士等と談笑するといふ朗かさで、城内に入り込んだ我が居留民の數も加速度的に増加し既に二百五十名を突破、城南東南部は宛然日本人街を構成してゐる。

これ等邦人の數は今後益々増加する一方と見られるが、二十日午後一時から太原日本人會の發會式が舉行され邦人の各方面に於ける活躍は愈々顯著となつて來た

末次内務大臣は地方長官會議に於て左の如く訓示した。

「抑も帝國は日滿支三國の提携親善をもつて東洋平和の樞軸となし依つて以て世界の平和に貢獻せんことを期してゐる。従つて苟くも帝國の眞意を誤りこれが遂行を阻害するものあらば斷乎としてこれを排撃せざるを得ぬのである。政府は即ちこの不動の國是たる東亞永遠の平和の礎石を築き上は以て聖慮を安んじ奉り下は以て國民の負託に背かざることを期し茲に重大決意を以て時局の根本的解決を圖り今次の聲明において明かにした如く爾今一切國民政府を相手とすることなく眞に帝國と提携するに足るべき新興支那政権の成立發展を期待し、これと帝國の國交を調整して更生新支那の建設に努力せんとする方針を確立するに至つたのである。しかしてこれが遂行は東亞の安定勢力たるべき大使命を擔へる我帝國の重

大責務である、顧れば事變勃發以來諸君が終始一貫相率ゐて動員、徵發、出征軍人遺家族の扶助その他各般に互る軍事援助並に國內治安の維持に多大の力を致され殊に政府が國民精神總動員運動の實施を提唱するや全國民の熱烈なる協力を得官民一體一大國民運動となりて着々その成果を收めつゝある事は洵に同慶の至りであつて、その間に於ける諸君の勞苦は眞に感謝に堪へざるところである。今や支那事變は第二段階に到達したが今日の事態は素より事變の當初より豫想されるところであつて、これにより何等動ずるところはないのである、然しながら思ひを今後に於ける事態の推移に致せば我國の前途は實に容易ならざるものがあり幾多の難關が横たはつてゐる事を覺悟しなければならぬ、殊に國際情勢は頗る複雑微妙なるのみならず各國權益の甚しく錯綜せる彼の地に於ける健全なる新政

権の建設發展に協力し一面抗日に狂奔蠢動する國民政府の消滅を期するはその事極めて至難なりと言はねばならぬ、これがためには舉國一致今後長期に互る用意を以て難局の打開と國運の發展とに邁進するところがあらねばならぬ、即ちいよ／＼時局に對する認識を深めます／＼堅忍持久の節を持ち犠牲的精神を旺盛にし進んで國難を突破するの覺悟を新たにする用意を必要と信ずる、政府が今同中外に對して聲明を發した所以も一に斯る重大使命の達成に邁進するの一大決意を表明し、この際更にこの曠古の大業に參畫する全國民の勇奮興起を求めんとするの趣旨に外ならぬ、諸君は如上の趣旨を普く管内に徹底せしめ國民精神の昂揚に努めとる共に銃後施設治安維持を全うし國防の充實を計り外艱克服のためよく奉公の赤誠をつくされんことを切望してやまぬ次第である。」

上野精養軒に開催の民政黨大會に於て町田總裁は國論を統一し舉國一致に努めよと獅子吼した。

二月二十一日 第七十三通常帝國議會は休會中の所開會し貴族院では近衛首相の施政演説廣田外相の外交演説杉山陸相及び米内海相の戦況報告演説があつた。衆議院では首相、外相、陸相、海相の外賀屋藏相の演説があつて、川崎堤島田諸氏の質問があつたが何分戦時色に彩られた議會である昨春の如き濱田老と寺内陸相との對立的騒ぎは見られない。

中國々民外交協議會では昨二十日各團體聯席會議を開き左の事項を決定した。

一、全國民の政府擁護主張を世界に宣傳する。

二、大會を招集して世界的日貨抵制運動を起す。

三、國際聯盟及び各國をして對日經濟制裁を促進せしむること。

四、日本に對し軍需品の供給をなさしめず。

五、國際聯盟に二代表を派し日本を制裁して中國を援助せしむ。

六、調査團の派遣を求む。

七、全世界反日週間を設く。

二月二十二日 第七十三回帝國議會再開す兩院各派勢力は左の通りである。

◇貴族院(欠員二名)子、男各一名)

研究 一六三 公正 六七

火曜 四三 交友 三四

同和 三三 同成 二四

無所屬 三一

外に皇族御十八方方が議席を有せらる。

◇衆議院(欠員三名)

民政 一七六 政友 一七四

第一俱樂部 四九

(内譯 國盟二、日本革新黨四、皇道、

一、無所屬三三)

社大 三五 東方 一二

純無所屬 四 第二控 一三

(内譯 郷軍一、養正一、無所屬一一)

蔣介石は壊滅に瀕した支那空軍建直のためソ聯より大量の飛行機を仰いでゐるが、信ずべき情報に據れば更にソ聯製重爆撃機二十機が二十日蘭州經由漢口に到着したと謂はれる、尙蔣介石はこれら外國製飛行機その他殘餘の空軍を南昌、蘭州、宜昌、漢口、襄陽、廣東、長沙の各飛行場に分散集結せしめ敗殘空軍最後のあがきを試みんとしてゐる。

二月二十四日 貴族院では國務大臣の演説に對し紀男爵が「日本は教育方法を改善して日本精神に立展る日本人的教育を施して其の品位を高めて世界人類の幸福の爲に又世界の平和の爲に平和的に平和を教へ行かねばならぬとの意見を述べて文教革新の質問、小坂氏が人民戦線運動者の檢舉概要中に「今や民主主義の思想は共產主義思想發生の温床を成すも

のなる危険あり」とありて或は善良なる人民が非國民扱をされる様にならば民心に動搖を來す虞ありと述べての質問があつて關係大臣から答辯があつた、衆議院では濱野徹太郎氏の革新政策、人權蹂躪問題等の質問があつた。

山西方面の共産軍を指揮して對日抗戦を續けてゐる第八路軍副總指揮彭德懷は突然漢口に現れ二十二日ニューヨーク・タイムズ紙漢口特派員に會見したが次の如き興味ある事實が暴露された。

「漢口にやつて來た第一の目的は蔣介石に軍資金を増加してふためいたが、うまく行かなかつた、現在支給されてゐるのは月額五十萬圓だが十萬の軍隊を養つてゆくにはこれだけではとても足りぬ現在我々は武器食料品及び醫療品の缺乏に非常に苦しんでゐる、數ヶ月前に約束した機關銃、高射砲も未だ受取つてゐない有様だ。それにも拘らず蔣介石は財政

逼迫を理由に軍費増加の相談には乗れぬときつぱり斷つた、遊撃戦術だけでは戦に勝つことは難しい」

同々教は五千萬の信徒を中國に有してゐるが二月初旬を期し北京懷仁堂において中國同々教總聯合大會を開催、反共宣言を發表すると共に中華民國臨時政府を擁護することとなつた。

我が海軍機は海州停車場附近、衢州飛行場、寧波飛行場空襲、宜昌飛行場を急襲し地上機十六機を爆破炎上せしめた。尙南支方面では新街驛、黃石郭塘、斗山驛等を爆撃し多大の損害を與へた。

二月二十五日 貴族院では商法中改正法律案等が上程せられ委員付託となつた後、園田武彦男の支那事變の質問に次で大河内輝耕子の「政治の中心は何處にあるのか、外部の勢力に動かされず政治の中心は、しつかりと内閣に置かねばならぬ」との意を述べ質問すればさすがの近衛首相も

色をなして、儼として内閣に在ると答へ空気を緊張せしめた、衆議院では問題の「電力管理法案」が提出され永井暹相の説明「斷じて本案より後退する意志はありません」との答辯があつて質問答辯は賑々しいことであつた。

敗戦の母國に引揚げる許世英駐日支那大使を乗せたエムプレス・オブ・エシア號は二十五日午後三時半上海出帆香港に向つたが同日正午過ぎ船内に待ちうけた記者團と會見した。

「仕方がありません、自分は非常に寂しく悲しく不愉快に思ひますが之が現實です日本と支那は手を取つて行くべき國で一般の人は誰でもさう思つてゐます。支那民族の感情は戦争と雖も抑へるわけには行きませんが、人情と戦争は別物です、あゝ今となつては何も申し上げますまい」と紺の背廣、半白の口ひげ、船窓から日章旗はためく上海を眺めながら更らに「沈痛

の空りです」といふ言葉を繰返しながら「平和になつたらまた東京に行つて見たいと思ひます、澤山仲のよい友達があるから、だが外交官としてはもう御免です」と静かにいふ、なほ許大使は二十七日香港着約二週間滞在後命令を待つて漢口に向ふ筈である。

一月二十六日 衆議院では豫算總會を開いた。勝氏が公債消化と物資供給の問題、砂田氏の日滿支の經濟問題を中心の質問は相當價值ある問題であるが聊か肉薄力に乏しい感がある。

南京攻略後揚子江對岸地區に百戦せる我軍の一月二十二日迄に敵に與へし損害及びわが方の戦死傷者左の如し。

◇敵の損害

一、遺棄死體

約一、四〇〇

一、鹵獲小銃大砲

約四八〇

◇我方の損害

一、戦死傷

約六〇

一、梁家岡を占領す

二十五日津浦線明光を進發した添田部隊は池河を敵前渡河し午後二時半早くも梁家岡を占領更に敗殘を急追して北進す。

二十日以來山東省臨朐にある殘敵二千の有力なる集團に對して攻撃中の片野部隊の一部は砲兵隊協力のもとに猛攻を加へ寡兵よく敵を撃破二十三日朝同城を完全に占領した、敵の武裝解除百二十二、遺棄死體七十、我方は僅に輕傷一名を出したのみであつた。

なほ武内部隊は二十三日項周村北方の長山附近にある殘敵掃蕩小銃拳銃等を多數鹵獲した。

我が工藤部隊は石家莊西北方二十里の洪子店に根據地を有する約三千の敗殘兵大部隊を討伐すべく二隊に分れ去る二十一日石家莊を出發、一部隊は二十二日拂曉南馬塚において二千數百の敵と遭遇、敵は敗殘兵といつても機關銃、迫撃砲等をも有する共産軍で頑強なる抵抗を試み我が

軍は千田久造中尉以下十三名の戦死、戸垣勇少尉以下十五名の戦傷者を出したが遂にこれを撃退敵は約四百の死體を遺棄して山嶽地帯に潰走した。一方平山（石家莊西北方十五里）方面より向つた部隊は溫湯鎮附近にて約六百の敵攻撃四名の負傷者を出したが追擊又追擊二十三日兩部隊相協力して敵の根據地たる洪子店を占領、引續き附近一帶の掃蕩を終へて二十六日朝石家莊に引揚げた。

一月二十七日 貴族院では大藏公望男が官吏制度改革、淺田良逸男が對支國策、支那駐兵問題についての質問があつた。衆議院では豫算總會に於て小山谷藏氏が滿洲利權の大部分を日産の鮎川義介氏に獨占せしむるとの見地から隔靴搔痒の質問を發した。

一月二十八日 陸軍飛行隊瀧、野中各部隊〇〇機は二十七日午前十一時過ぎ密雲を冒して徐州に飛び徐州飛行場を始め各重

要軍事施設に猛烈なる連續爆撃を敢行、格納庫、兵舎などを爆撃するなど多大の打撃を與へ又他の一部隊は津浦、滬海兩線に飛び鐵道線路鐵橋を破壊して敵の重要軍事輸送陣に多大の損害を與へた。中華民國臨時政府は去る十六日發表の帝國政府の聲明に對應して左の聲明を發表した。

聲明。「國民黨の國を誤り人民に危害を及ぼせるは一黨一身の利得に専念し國家人民の利益を顧慮せざるに起因す、彼等の罪惡は事實に照し見て既に明白にして今更吾人の評論を俟たずとも萬人の齊しく認むるところ(中略)彼等黨政府は既に吾人の政府たる資格を喪失せり、彼等黨人は専ら民衆を脅かしてその權利を保持せんとし國人を欺瞞して排日を煽動し種々の毒計を策す。若し驕然として從來の欺瞞政策を變更せんとしてもそれ自ら號稱の具を失ふこととなり、従つてその内部

の崩壞を招來するは必然の歸結にしてこの情勢よりすれば如何なる便宜を與ふるも藉すに時日を以てするもその反省は到底望むべからず、今日に至り彼等と絶縁するも亦已むを得ざるところなり。友邦日本も亦東洋平和の素心によりその反省を促せども遂に彼等の反省するところとならず、自ら墓穴を掘りて擾亂を止めざるなり。

◇ ことにおいて吾等同人は十二月十四日黨人に代りて民を救はんと念願し臨時政府を組織せしに友邦日本は去る十六日聲明を發して遂に黨國政府を對手とせず新興政府と國交を調整し更生新中國の建設に協力し以て東洋平和に寄與せんとするの決心を明かにせり、これ吾等同人の最も欣榮に堪へざるところにして吾人又友邦の協力により戰禍を蒙れる民を救ひ共産赤化を絶對に排除し更生國家の建設に努

力し相共に携へて東洋平和確立に邁進せんとする次第なり」

貴族院では杉山陸相が軍の陣容に關する廣範圍の改革斷行と長期持久戰に對する相當兵團の駐屯とを答辯し會議の注意をひいた。衆議院では豫算總會に於て長期抗戰に對應する國防充實と戰時財政の遺憾なき運用に付ての眞劍な實質的な檢討的質問應答が行はれた。

二月二十九日 衆議院では農地調整法案が提出され有馬農相の説明があつて岡本實太郎、加藤知正、村松久義、伊東岩男、長野長廣、吉植庄亮、赤城宗徳、前川正一、中原謹司、大石大等の諸氏から質問し農村日の感を與へた。豫算總會に於ては松村光三氏が官僚統制反對を強調した。

六合、來安、滁縣附近の山間地帯に在つた土匪改編の抗日遊撃軍合計約三千五百は二十九日右三縣の治安維持會を通じて

我方に歸順を申出たので我方では武装解除の上占領地域に收容した、彼等は抗日戦線のお先棒を擔いでゐたが中央より派遣された正規軍將校を殺害、投降したものである。

津浦線北上中の我が軍は二十九日早朝より吹雪を冒し進撃を開始、その一部は午前十時三十分池河鎮を完全に占領、市街の高樓に日章旗を懸した。池河鎮は定遠東方二十キロの地點にある敵の重要據點である。

山東省曲阜の東方約三里の大泉村に匪賊ありとの報告に二十七日夜半出動命令を受けた久保部隊は同部落を包圍し敵の寢込みを襲ひ殲滅的打撃を與へた、この戦闘における敵の遺棄死體五十、輕機關銃一、小銃十三、彈藥若干を鹵獲した、我方の損害は戦死、負傷各一である。

陸軍飛行隊千賀部隊(〇機は吹雪を冒し敵の津浦線前線據點鳳陽に飛び地上部隊

の進撃と呼應して敵の各陣地に互彈を投下し多大の損害を與へ地上部隊の作戦を効果あらしめた。

津浦線黃河の大鐵橋が爆破されたため鐵橋下流百メートル附近に架橋中であつた假鐵橋は晝夜兼行の我が決死的作業により順調に進捗、津浦線の天津、濟南間は愈來る二月十一日紀元節の佳日として完全に開通の豫定となつた。

これと共に濟南以南の津浦線も同時項には復舊を見天津〇間は完全なる列車の運行を見る筈である。

一月三十日 明光より津浦線に沿ひ北進した添田部隊一部は白皚々たる降雪を踏み三十日正午過ぎ大韓庄を占領更に進撃中我が長谷川部隊は二十五日蕪湖南方山口附近にありし敵百四十七師第二旅に屬する約一個團を攻撃、敵の遺棄死體は約三百、我方には殆ど損害がなかつた。

一月三十一日 衆議院では豫算總會に於て

砂田重政氏の帝人事件、肥田琢司氏の内務人事、原夫次郎氏の司法制度改革問題で花を咲かした又電力管理法案委員會では論難が交はられた、貴族院では田中館博士のローマ學論でのんびりした氣分であつた。

津浦線を北上潰走する敵を猛追中のわが添田部隊は三十日正午頃明光西方凡十五キロの燃燈寺西北部に達し引續きその附近部落の敵を攻撃雪中の前進を續けて居る三十日燃燈寺を占領した添田部隊一部〇〇部隊は三十一日早朝寒風を冒して進軍燃燈寺西北方部落を奪取正午過ぎには尙李家、君陳庄一帶の線を確保した。三十日正午大韓庄(明光西北約七キロ)を攻略した添田部隊は三十一日朝來殘雪を踏んで津浦線に沿つて猛進を續け目下郭園子(明光西方約十キロ)に迫りつゝある。

三十日朝の明光西南方の戦闘は本年最初

の激戦で我が田代部隊は三十日拂曉明光西南方に於て敵の大部隊と遭遇するや殘雪の曠野に壯烈なる拂曉戦を展開した後敵に殲滅的打撃を與へ敵は死體千餘を殘して潰走、この激戦で我が方にも戦死傷若干を出した。寒氣と食料の缺乏から土匪に早代りした支那軍遊撃隊は揚子江北岸方面には相當多數に上り良民を脅威して居る事實が判明したので川並部隊の一部では鎮江對岸の揚州附近一帶に互り二十九日より土匪掃蕩を開始し、更にその一部は〇〇部隊と合して浦口附近大河口上流の優勢なる土匪と交戦殆ど殲滅した

二月一日 昨年十二月十五日全國十八府縣に互つて人民戦線運動關係者四百名の大檢舉を斷行したが此日拂曉第二次檢舉が行はれ全國で三十八名内東京では帝大教授大内兵衛、同助教授有澤廣己、同脇村義太郎、法大教授美濃部亮吉、同南謹二法大講師笠川金作、法大教授阿部勇其他

十六名が檢舉された。貴族院では平沼亮三氏の國民體位向上、三室戸敬光子の田中耕太郎氏著書を引用しての國體明徴の問題に關する質問があつた、衆議院では豫算總會に於て中島彌

團次氏の支那事變西岡竹次郎氏の對支政策問題に關する質問及び廣田外相杉山陸相の答辯は注意をひいた。京漢線沿線地方の匪賊敗殘兵は續々歸順し合計一萬五千名に達した。上海附近陸軍警備區内は軍事上の必要から過去數ヶ月間一般邦人、支那人の通行居住及び營業の自由が禁ぜられてゐたが、軍當局でも愈二月五日午前八時より右の禁止を解除することとなつた。

二月二日 津浦線を北進中の倉林、田代兩部隊は二日朝來鳳陽への總攻撃を開始し頑強に抵抗する敵を猛襲、遂に午前十時三十分南側城門より殺到し同十一時鳳陽を完全に占領し日章旗を翻した。津浦線

蚌埠前面の鳳陽南方の紅山の山嶮に據る敵は倉林、田代兩進撃部隊に對し迫撃砲十數門を以て猛烈に反撃し來つたが兩部隊將兵は壯烈にも肉彈を以て見事これを撃破した。陸軍飛行隊瀧野中、神崎、河本、栗山各部隊長自ら指揮の〇〇機は二日早朝來津浦線蚌埠に密集の敵兵及び軍事據點に巨彈の一齊投下を敢行、多大の打撃を與へた。

二月三日 衆議院では赤字公債委員會に於て赤字公債によつて來る大陸政策について機微な質問應答があつた。我海軍の撃破せる支那飛行機數等に關して大本營海軍報道部では三日午後三時半次の如く發表した。一、昭和十三年一月我海軍の撃破せる支那飛行機數(一月三十一日調)

那飛行機數	(一月三十一日調)	確實	稍確實	計
擊	擊	二七	六	三三
地上爆破	七八	三	八一	

計 一〇五 九 一一四

二、昭和十三年一月中旬の我損害二機

三、事變發生以來我海軍の撃破せる支那

飛行機數

確實 稍確實 計

撃 墜 二六八 二三 二九一

地上爆破 三六三 三八 四〇一

計 六三一 六一 六九二

四、事變發生以來の我損害六五機。

支那新聞がこの三日になつてやつと南京

苦戦の真相をそれもほんのちよつびり漏

らした、それによると十二月の南京攻略

戦に於て最も激戦の行はれたのは南京城

南雨花台で中央軍精銳中の精銳たる第八

十八師が陣地を守備してゐたが、右戦闘

にて僅二名が生き残つたのみで一萬数千

名は戦死したとありその記事には

僅かに二名生還することを得たり、かく

の如き光榮の戦記は開戦以來未曾有の記

録である。

二月四日 我海軍では芝罘港の東砲台及び

西砲台の爆破を計畫中であつたがいよいよ

四日午後三時より先づ東砲台の爆破を

始したがその火煙及び音響は一時芝罘開

の街を蔽ひ凄じい光景を呈した。

東砲台は二十一サンチ砲三門、錆びては

ゐるが西砲台は十五サンチ二門、クルツ

プ製の新式砲弾も六十發發射の準備が整

へられてゐた。尙この爆破と共に火薬庫

にあつた二百貫の黒色火薬も爆發させた

四日早晩上海佛租界側エドワード七世路

ポストマーキユリー・ビル二階目がけて

長衣の一支那人怪漢が手榴彈を投じ、上

海イヴニング・ポスト・マーキユリー紙主

筆米國人ランドール・グールド氏事務所、

オリエンタル・アフエアズ誌主筆英國人

H・G・ウッドヘッド氏事務所並にUP

(米國合同通信社)事務所を破壊した事

件は、其後判明せるところによれば當時

現場に居合はせたのはUP夜間勤務員と

支那人助手のみであつたが、兩名とも負

傷を免れ又玄關口に眠つてゐた支那苦力

は側の椅子が木葉微塵に打碎かれたに拘

らず不思議にも微傷も負はなかつた。

なほ一部にはウッドヘッド氏が創死した

如く傳へられたが同氏もグールド氏も當

時既に自宅に歸り就寢中であつたため難

を免れた。

二月五日 衆議院豫算第二分科會で江藤源

九郎氏が末弘巖太郎、横田喜三郎、宮澤

俊義、嶺山政道四教授の著書を槍玉に舉

げての質問は注意すべきことである。

青島にある我が陸海軍は共同で五日左の

通り布告した。

「左に掲ぐる行爲をなしたる者は軍律に

照らし死刑、その他の重罰に處す、但し

發覺前自首したる者はその罰を減刑又は

免除せらるべし(一)日本軍に對する抗

敵行爲(二)間諜行爲(三)日本軍の利

用する鐵道、電信、電話、橋梁、水道な

などを破壊、切斷しその他交通、通信、運輸を妨害する行爲(四)水道、電燈などを損壞する行爲(五)日本軍所屬者に危害を加へ又は日本軍の兵器彈藥その他軍需品を盜奪、侵害する行爲(六)日本軍を害する目的を以て毒物、細菌を使用する行爲(七)その他日本軍の安寧を害し又は軍事行動を妨害する行爲(八)以上の行爲を企圖し又は教唆もしくは幫助する行爲(九)以上の行爲をなしたるものを隠匿する行爲」

蒙疆振興の自動車運輸事業蒙疆汽車公司の第一期四ヶ年計畫は此の程蒙疆聯合委員會の審議を終へ一兩日中に認可されることとなつた。これは國防上の重要性と共に西方貿易の將來を約束するものとして注目され、四年計畫完成後の重要路線は總延長六千キロに達する豫定で、三年後には二百五十輛を配車することとなつてをり、之に要する資金は四百萬圓と推

定される。

リツトル提督の後任として三日香港に到着した新任英國支那艦隊司令長官サー・パーシー・ノーブル中將は五日艦カンパリーランド號上において就任式を舉行した

二月六日 綏遠、山西、山東各方面戦後、清掃蕩は着々進行中であるが最近に於ける主なるものは次の如くである。山西省渾源の我が部隊は一月二十七日渾源西方に在る稿家莊において四百の共產軍を殲滅▲前山東省濰縣縣長厲文彬の率ゐる五百の匪團を我が栗飯原部隊は一月二十七日掃蕩▲竹川部隊は一月三十一日山東省淄川東方地區に蟠據せる紅槍會匪四百を撃破。なほ大場部隊は一日午前濟南東南八キロの地點にある龍洞莊で八十名の紅槍會匪を潰走せしめたが、匪賊は無智蒙昧、手に／＼長槍を持つて我が銃火に立

向つて來た。

二月七日 憲法發布五十年の歴史的祝典準

備の爲内閣も議院も多忙を極め而かも憲法功勞者伊藤博文公大隈重信侯板垣伯三元勳の銅像除幕式が議事堂で行はるるので一段と祝典氣分が濃厚となつて居る。それでも電力委員會では愈々微細な討議が行はれた。

中華民國臨時政府を絶対に擁護し共產主義絕對排撃を叫ぶ「中國回教總聯合會」の成立大會」は七日午前十一時より北京懷仁堂で全國代表六百名參集の上盛大に舉行された。

中華民國新民會副會長張燕卿並に我が日本大使館森島參事官、喜多少將、管海軍武官、新民會茂川少佐等列席、先づ準備委員會主席劉錦標氏が開會を宣し、五色旗、回教旗の交叉する祭壇に向つて恭しく三鞠躬の禮を行つた後、王瑞蘭氏を聯合會委員長に推薦する旨を宣し、宣言を朗讀、國家危急存亡の秋回教徒の一大奮起と國民黨の徹底的膺懲を叫び、中、日滯

三國の親密提携を高調するところあつた。

二月八日 衆議院豫算分科會での問題は人權蹂躪問題、國民精神總動員運動、官吏制度改革、地方財政補給金増額問題等が討議の主題であつた。

兩角部隊は六日朝來武店東北八キロの劉庄の附近に於て約千五百の敵と交戦中であつたが七日正午之に殲滅的打撃を與へて潰走せしめた、敵の遺棄死體二百五十敵は廣西軍及び中央軍教導總隊第二聯隊第一大隊であつた。坂西部隊は七日朝〇〇に向つて進撃を開始し午後二時大名南方南樂縣城外の陣地に據る約二百五十名の敵を撃破一氣に城壁に迫り城内に立て籠つて執拗に抵抗する八百の敵を破つて午後五時十分南樂城に入城し城頭高く日章旗を繼した。

一月二十八日より二月四日に至る津浦線南段地區の作戦は淮河南方の水流と高地

錯綜せる地帯に於て卓拔なる戰闘指導により隨所の敵に殲滅的打撃を與へ、ために直接我と交戦せる敵兵力の大部分を倒しその遺棄死體のみにても約七千に達する損害を與へたり。八日午前十時〇〇部隊發表し四宮部隊及び横尾部隊は三日午後二時淮河を敵前渡河し懷遠城に突入し之を占領せり。

二月九日 大山大尉と齊藤一等水兵が虹橋飛行場近くのモニュメント路で支那保安隊のために殺害されて以來早くも半歳を経過した九日はその記念日に當るので、大野田少佐を指揮官とする第〇部隊は大山大尉の舊部下と共に午前八時半モニュメント路の墓に詣て兩勇士の靈を懇ろに慰めた。津浦線黃河の假橋は、爆破された大鐵橋の下流において我が鐵道部隊及び滿鐵技術員の手により銳意架橋作業を急いで居たが、九日愈完成を見たのでこの日午後三時試運轉を行つた。新橋は長

き三百五十メートル、高さ七メートルで去る一月十日工事をはじめてより僅かに一ヶ月を経て完成したもので、そのスピード振りには驚嘆すべきものがあり、技術日本の眞價を誇示して一段の壯觀を呈してゐる。なほ津浦線泰安南方大洞河にも同日假橋完成し濟南濟寧迄の二十六ヶ所に及ぶ破壊箇所も残らず補修成り十一日紀元の佳節を期し黃河河畔に盛大な開道式を行ふ。北西の奥地に遁塞せる共產軍の蠢動を根絶するため我が〇〇部隊は去る四日より六日に互り古交鎮（太原西方汾河溪谷地帯）附近に蟠居する約二千の共產軍を攻撃その根據地を覆滅して多大の損害を與へ、次いで七日崞縣北方六キロの黃家堡に於て共產軍幹部の秘密會議開催中を急襲し首腦部を捕縛した。尙山東の膠濟沿線でも竹川、中島各部隊は夫々大尙（周村西南約十三軒）安戶莊（濰縣東方約十四軒）東同下の各地で四百名乃

至八百名の共產匪を討伐し敵を撃滅多數の兵器を鹵獲した。

二月十日 憲法發布五十年祝典の前日であるので帝國議會兩院とも和氣溢るるの光景を呈した、即ち午前は議事堂廣間に於て伊藤博文、大隈重信、板垣退助三勳功者銅像除幕式が行はれ三家遺族並貴衆兩院代表者百五十名が参列し一同感激を新にしつゝ舉式が行はれた。式後貴族院

では奉祝上奏文捧呈を議決した、衆議院でも奉祝上奏文を可決した尙豫算總會では昭和十三年度總豫算二十八億六千七百萬圓を無修正にて可決した。

陸軍航空隊島谷隊の〇〇機は敵の高射砲機關銃の砲彈を犯し京漢線黃河鐵橋の爆撃を敢行橋脚を爆破し凱歌を擧げて歸還した。

孔祥熙の妻宋靄齡及び蔣夫人宋美齡の行動に就て最近蔣介石顧問英人ドナルド氏が香港で外人側に漏らした言葉により宋

姉妹は香港に滞在し國民政府の巨額の武器購入に狂奔しつゝある事が判明するに至つた、即ち國民政府は最近の漢口軍事會議の結果

一、徐州方面の會戰に於て徹底的抗戰を行ふ

二、全戦線に互り至急武器の補給を行ひ反撃體勢に出づる

に決定、宋姉妹は香港に於て宋子女、孔祥熙等と共に武器購入に狂奔し外人側に對しては列強が支那の武器購入に援助を與へるならば支那は此の長期消耗戰に於て必ず日本に打勝つ自信あり、武器購入のため宋家一門はその私財の大部分を提供するも辭せずと豪語してゐると傳へらる。

春季雜吟

初聲

春曉や鳩舎を圍む松低う
春曉の窓梅が香に開きけり
芹摘むや水に映りし蔦の影
根芹摘むや裾にまつはるはぐれ犬
目刺焼く煙の中の唄かな
地酒酌んで目刺食り食ひけり
梅一と木咲き誇りけり賣屋敷
梅寒き片側町よ鍋焼屋
夕なづむ沼の廣さや雁の立つ
電燈の笠を離れず冬の蠅

巴藤

釣り暮れて土手の暗さよ梅香る
我が浮木の生簀からむ春の潮
うつらうつら風待つ舟や春の海
雪解やふりし蛇籠の無慘なる
丘越えてまた川渡り野火走る
稀に來て風に興ずる日は暮るゝ
若鮎や江橋水柵も去年のまゝ
初鮎のつりあえずして橋の雨
目刺焼くそぞる心や寄食人
あてもなく歩く野路や下萌す
やよしばし啼くな飛ぶなよやせ蛙
田螺泡をふくに遅速や飛機二つ